

地元紙

新聞の読み比べ学習が小学高学年の国語にある。実際にはどう行われるのか。NIE（教育に新聞を）活動で日本新聞協会の実践指定校となつている宮城県松島町の松島二小で15日、導入の授業があり、5年生の児童たちが地方紙と全国紙を比較し、視点の違いなどを考えた。

◇
NIE担当の秋場文東教諭が最初に取り組んだのは新聞に触れること。クラスの27人全員に1部ずつ、当日の河北新報を配り、「どんな記事が書いてあるか探してみよう」と短時間で多くのページをめくるように呼び掛けた。
児童は目に留まった記事をノートに記入。掲載内容を「ニュース」「スポーツ」「天気予報」「復興支援」などと発表した。新聞のイメージをつかんだところで、読み比べに入った。題

宮城・松島二小「読み比べ」授業

視点いろいろ

材に選んだのはJR常磐線の全線再開のニュース。東京電力福島第1原発事故の発生から9年を経て、福島県内の不通区間が解消された翌日3月15日の地元紙（福島民報）と全国紙（読売新聞）を比べた。

地元紙は一面トップや社会面トップで大きく報じ、全国紙は第2社会面の中段で扱っていた。秋場教諭は記事のコピーを配って「なぜ記事の大きさや内容が違うのか」と問い掛けた。「福島民報は地元のことを中心に、読売新聞は全国や世界のニュースを取り上げている」「福島民報の写真は列車と地元の人と一緒に撮っている」。児童たちは積極的に意見を出した。
9年ぶりの運行再開は今も避難生活が続ける住民の念願だった。

全国紙

た。秋場教諭は、地元紙は住民の思いに焦点を当てていることを説明。「新聞の作り手が何を伝えたいかによって、記事の内容や扱いは変わる。書き手の意図を意識して新聞を読もう」と語った。

授業後、児童たちは「新聞記事はただの情報と違って、思いを寄せて伝えたいことを書いていると分かった」「新聞を読むと、世の中で起きているいろいろなことを知ることができると感想を話した」。

同じ題材扱い方に違い◆「書き手の意図意識を」



●地元紙と全国紙を読み比べ、書き手の意図の違いなどを考えた授業。15日、宮城県松島町の松島二小で松島二小の昇降口脇に設けられた新聞コーナー。付箋を置き、児童が記事の感想を書いて貼れるようにしてある。